

【目次】

- ・はじめに・・・
- ・【仕様】・
- ・【モーター取扱】・
- ・【参考】電圧降下
- ・各部の名称・
- ・ドラムおよび
- ・【安全上のご注意】・
- ・【運転準備】・
- ・【各部調整】・
- ・【主要部の分解】・
- ・故障かな、と

【はじめに】

【 仕 様 】

305型フローアーサ

機体幅 : 490mm
 機体長 : 970mm
 機体高 : 1090mm
 ドラム幅 : 305mm
 ドラム直径 : 185mm
 概略重量 : 113kg

ウェイト : 20kg
 使用ゴムおよび
 ペーパーサイズ : 幅305mm

《モータータイプ》

モーター : 3.7kW
 ※発電機容量 : 1.3kVA
 電 源 : 三相交流
 (50Hz)

ドラム回転数 : 1900回転/分
 2240回転/分

* Vベルト(ドラム) : A

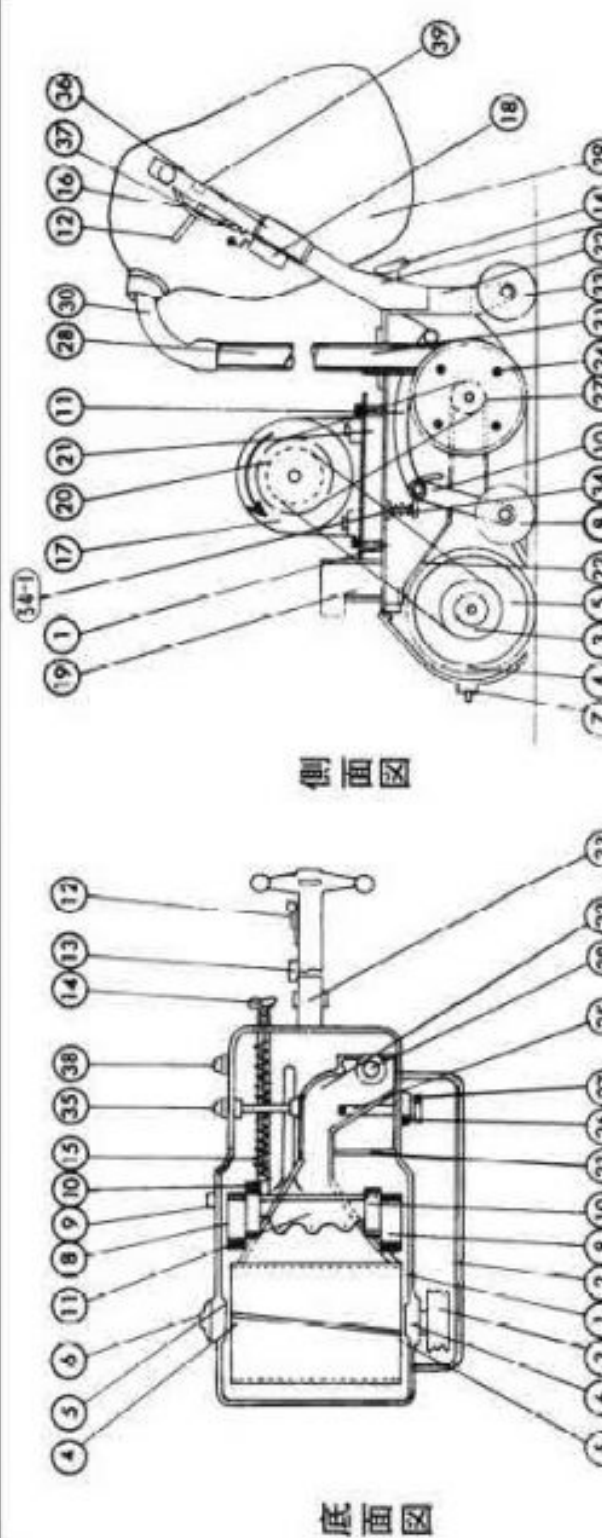
ファン回転数 : 5150回転/分
 6120回転/分

* Vベルト(ファン) : A

【モーター取扱い仕様】

モーター三相四極全	
	50Hz
出力 kW	3.7
電流(A)	17A
回転数(rpm)	1430rpm
定格電圧	200V
絶縁種別	絶縁
温度上昇限度	7
キャップ最少 太さ(mm ²)	
タイ-配線長 (m)	※25m以上 キャップタイ ※電源・ト 事前に 電源容 は運転

各部の名称



番号	名
1	本体
2	ベルトカバー
3	ドラムブリー
4	サンダードラム
5	ペーパー締ロッド
6	ベアリングケース
7	サンダーローラー
8	上下可動車輪
9	片削り規正エキセ
1 0	車輪レバー（縦）
1 1	車輪レバー（横）
1 2	サンダードラムク
1 3	ターンバックル
1 4	ドラム強弱規正ハ

番号	名
2 1	モーターベース
2 2	吸込みラッパ
2 3	ファンケース
2 4	ファンケース取付
2 5	ファン
2 6	ベアリングシャフ
2 7	ファンドライブプ
2 8	吸込みパイプ
2 9	吸塵袋
3 0	吸込み曲りパイプ
3 1	吸込みパイプ用フ
3 2	キャスター
32-1	ハンドル受け
3 3	キャスター車輪
3 4	上下動車輪用スプ



コード掛け

吸込みパイプ

各部の名称

305型フロアーサンダー

本体右側面

254型フロアーサンダー

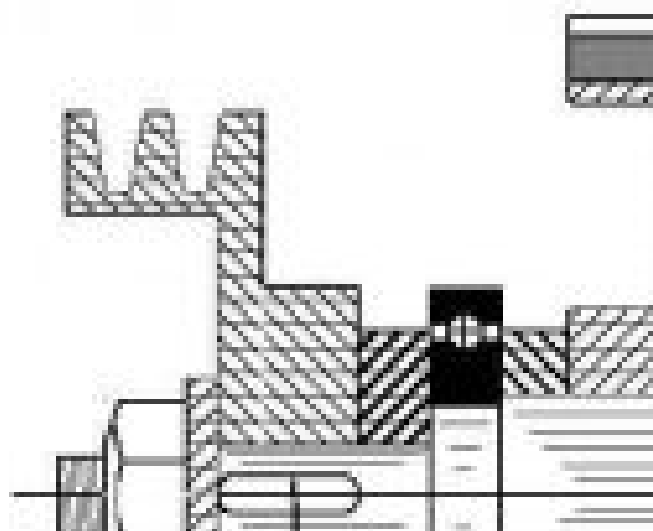
本体左側面



吸込み曲がりパイプ

ドラムお

1	Vブーリー締付ナ
2	平ワッシャー スプ
3	Vブーリー
4	Vブーリー用スピ
5	カラー①
6	ボールベアリング
7	カラー②(ベアリング
8	ドラムシャフト



【安全上のご注意】

(◆=◆+！ (危険)、 △

この取扱説明書では、
ために、安全注意事項を
一括して掲載しています。

<◆危険> 取り扱いを誤
受けるおそれ

<△注意> 取り扱いを誤
ける可能性が
れる場合。

※注意に記載した事項で
あります。いずれも重

モーター ◆ 爆発
◆ 感電
ない
ボデ

搬入 △ フロア
際は、
△ 運搬の
△ フロア
入は、

キャプタイヤ ◆ 電源
(電源コード) 者 (1
配線および ◆ コー

- △ 可動部
態、
して
- △ スイッ
いで

ペーパー装着

- △ サント
巻い
の原
- △ 巻き結
(※)

* ペーパー曲り部をな
ために、ドライバー
でこすって下さい。

ペーパーの曲げら

電源接続

- ◆ 運転
- △ 本体の
ディ
用し
異状

操作

- ◆ 本機
向が
して
- ◆ 研磨
少し
てそ
- ◆ 前後

【運転準備】

以下、実際の運用手順にします。
本機はおおよそ下記の手順で

- ペーパー巻締
- 1) ドラム
ドラム
てロ
2) ドラム
うに
を切
した
を装
ペー
ロー
(ペ
フト)

上下
に巻
膠に

床面の掃除

- ・ 床面を確認
さい。
因に

吸塵袋の装着

- ・ サン
して

電源の接続

- △ 所定の
グに
てし
くだ

腰ベルト取付

- ◆ 操作
両端

切削開始の
順序

- ◆ 騒音
てく

1. 正逆
本体

2 - 1 (前進). 腰ベ
押し
ます
てく
に来
から
箇所

2 - 2 (後進). 後進
ラッ
さい

【各部調整】 (名称については5ペ

◆安全のため、これらの作業を行う場

○片削りの場合

本機横にエキセン止め金具のボルト(示あり)がありますので、その上下い。次にシフト穴のエキセンをスバ右に回して修正して下さい。

※ベルトカバー側の軸は固定です。

※254型はベルトカバー側です。

○切削力の調整

- ・強弱規正ネジを右へ回し、中のスムへの圧力がかかり、切削力が増
- ・本体前方、左右2本のピンにウェ力が増します。

○床面とドラムとの間隔(上りしろ)

右写真中央にあるターンバックルナット)の下部のナットを左に回しめ、ターンバックルを回して、床面ラムとの間隔(上りしろ)を調整下さい。

○モーターVベルトの張り具合(緩み)

- ・ウェートを装着している場合は外下さい。
- ・モーターベースのセンターボルトナットを緩める。
- ・モーターベース下よりのセンターがり、ベルトを張ります。ただし

【主要部の分解】

○ドラムシャフトの抜き取

- 1) ベルトカバーをはずす。
- 2) Vベルトをはずす。
- 3) Vプーリー締付ナットを緩め(図2-10参照)。
- 4) 本体部ベアリングケースをはずす。
- 5) Vプーリー側よりシャフトを抜き取る。

○吸込みラッパの取り外し

- 1) ペーパー破れおよびホコリが吸塵部に吸込まないように、電源スイッチを切り、吸込みラッパを外して下さい。
- 2) 吸込みラッパ用止めボルト締めを緩めます。
- 3) 吸込みラッパを取り外します。ペーパーおよびネオスポンジ、ファンケースの破れを確認して組み立てます。

○ファンベアリングシャフトの交換

- 1) 各部名称番号27のファンベアリングシャフトを抜きます。
- 2) ベアリングケースの破れを確認します。
- 3) 名称番号28のファンベアリングシャフト、吸込みラッパ用止めボルト、このパイプの穴にネジ(ネジ)を右に回して締め、ドライバーで静かに打ち込みます。
- 4) 新しいシャフト入れ込みます。

○ドラムネオスポンジゴムの交換

故障かな、と思っ

本機の動作におかしなところがあるが、それでも直らない場合

- ・ 3 相 2 0 0 V の電圧が不足している
 - ・ コネクタープラグの接続不良
 - ・ キャップタイヤの取り付け不良
 - ・ 正逆スイッチの操作ミス
 - ・ (モーターがうなる)
 - ・ モーターが焼けてしまった
 - ・ 温度が異常に上がった
 - ・ 電圧は正常か
 - ・ キャップタイヤの取り付け不良
 - ・ キャップタイヤを延長した
- ※目安として、延長電線径の太い特

- [参考] ・ 3 . 7 k W の電機具の場合
- ・ 発電機の場合容量が必要

